

道徳科（人権）学習指導案

3年 A組 26名

指導者



1 主題 誇りうる生き方を求めて

2 主題設定の理由

本学級の生徒は、素直で落ち着いた様子で学校生活を送っている。3年生になり、最高学年であるという自覚が芽生え、学校の大黒柱として授業や学校行事に前向きに取り組む姿が見られるようになった。本学級では、現在2名の生徒が主に別室登校をしている。教室に入れないときには別室で自習を頑張っており、少しずつ教室に入ろうという気持ちを感じるが、もう一步のところで勇気がでないように見える。そんな2人に対して思いやりをもち、声をかける生徒が少しずつ現れてきた。目標は全員が教室に入って共に活動することである。誰もが安心できる教室になれるようさらに生徒と関わる時間を大事にしていきたい。人権学習では、自分の思いをワークシートに書くことはできるが、進んで発表をしようとする姿勢はやや消極的である。

2年生の終わりから3年生の前半にかけて「わたしの願い」を使って日本の人権獲得の歴史について学習したが、学習を進める中で、人間らしく生きる権利を奪った部落差別に対する憤りをもつ生徒が多くいた。6月の人権講演会では、西本篤人さんから識字学級について話をいただいた。講演を聞いた生徒の感想の中には、「わからないことはたくさんあるけど、識字学級に通う方の作文を見て力強く生きる姿に感動した」「人権に関する問題を他人事にしたくないし、させたくないと思った」「私たちが今学校に来られることは幸せなことだとわかった」と熱い思いを感じるものがたくさんあった。動画教材「雨の指もじ」での学習では、学校に行きたくても行けなかったことや字の読み書きができないことは仕方がないと考えていたことを疑問に思い、そのような現実を生んだ部落差別に対して許せない思いをもった。文字を獲得できたことで道路にある看板の文字が読めるようになったときの両親の喜ぶ様子から、生徒は大切なことを学んでいた。現在は、インターネット上にあふれる様々な人権侵害について、被差別部落の地名や場所を暴く動画や様々な差別的な書き込みに苦しんでいる人々がいる事実を怒りとともに認識し、そのうえで今なお残る結婚や就職差別は必ずなくしていくことができるということを学んでいる。さらに、自分に正しい知識がないと、インターネットから得ただけでは、自分も差別してしまう可能性があることも確認し合っている。そこで、今なお部落差別によって苦しむ人がある現状に憤りを持ち、人間として誇りうる生き方とはどういう生き方なのかを考え、部落差別をはじめ様々な人権問題の解決に向けて自ら行動していこうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 ねらい

今なお残っている部落差別の現状を知り、差別解消のために自分自身が行動していこうとする意欲や態度を育てる。

4 指導計画

識字学級について考えよう

4時間

「手紙～タヤけがうつくしい～」(「わたしの願い」道徳科) 2時間
「雨の指もじ」(「動画教材」道徳科) 2時間

識字学級で学ぶ人々のたくましい生き方を通して、部落差別に対する憤りをもち、差別解消に向け、積極的に行動しようとする態度を育てる。

講演会

「うたや人から学ぶ人権」

講話やうたから識字学級生の思いを知り、差別によって文字を奪われたことに対して憤りをもち、たくましい生き方について考えさせる。

就職差別について考えよう

4時間

「部落地名総鑑」(「わたしの願い」道徳科) 1時間
「許せない就職差別」(「わたしの願い」道徳科) 1時間
「就職差別につながるとされる14項目」
(「わたしの願い」総合的な学習の時間) 2時間

就職差別についての14項目を学習し、社用紙の問題点を考えさせる。14項目の質問がなぜいけないのかという理由を理解させ、すべての人がそれぞれの能力や適性に応じた進路の希望が実現できるよう、就職差別の撤廃と公正な採用選考の実現をめざす態度を育てる。

結婚差別について考えよう

4時間

「結婚のダイヤモンドランキング」(「自作資料」学級活動) 1時間
「あなたに伝えたいこと」(「動画教材」道徳科) 3時間

同和問題は知識として知っているだけでは解決しない。差別することがいけないとわかっているにもかかわらず直接自分や家族が当事者になったときに正しい判断ができなくなる場合がある。あらゆる差別をなくすという強い気持ちを育てる。

意見発表会・人権集会

様々な人権問題をテーマにした意見発表を聞き、他の人の意見を受けて生徒の人権意識を高めさせる。

インターネットと同和問題について考えよう

3時間

「インターネットと同和問題」(「動画教材」学級活動) 2時間
「誰もが幸せに生きられる社会にするために」(道徳科) 1時間(本時)

動画教材を使い、現在インターネット上にある同和問題について考える。人権侵害にあたる書き込みや投稿に対して、これからの自分がどう行動するかを考えさせる。これまで学習してきたことを通して、自分たちにできることを考え、誰もが幸せに生きられる社会、学校、教室をつくることを実現させるため、進んで行動する意欲と態度を育てる。

5 本時の学習

(1) 目 標

人権侵害にあたる書き込みの実状を通して、部落差別に対する憤りをもち、差別解消に向け、積極的に行動しようとする意欲を高める。

(2) 普遍的な学習のテーマ 基本的人権の尊重

個人人権課題名

同和問題

ねらいとする道徳的価値

C-(11) 公正 公平 社会正義

(3) 展 開

学習活動	指導上の留意点
1 これまでの学習を振り返る。	○これまでの学習から部落差別に対する憤りを もたせる。
誰もが幸せに生きられる社会にするために、何ができるだろう。	
2 これまでに学んだことを、自分の生き方や 生活にどう生かしていくかを考え、発表する。	○自分にできることは何かを考えさせ、自分の 思いを発表し、全体で共有させる。 ②
3 本時のまとめをする	○差別を他人事としない生き方が、互いの人権 を守ることにつながることに気付かせる。 ①②

(4) 評 価

- ・差別解消に向け、積極的に行動しようとする意欲を高めることができたか。

(価値的・態度的側面)①

- ・友達の意見を受け止め、自分の考えや思いを伝えることができたか。

(技能的側面)②